

シンガポール視察の旅

令和4年9月6日～9日までシンガポールに滞在しました。目的は子どもの留学候補先(マレーシア等含む)の学校見学と将来のシンガポール別院建立です。正直なところ日本の学校と寺院には将来性はないと思います。国際色豊かで多民族 多言語 気候は南国の温暖で少しのんびりとしたところも気に入りました。食事もよく物価が少し高いことは難点ですがとても暮らしやすい感じはしました。宗教にも敬虔な人たちです。何処も宗教施設は活気がありお参りが絶えないところもありました。出来たらシンガポールに病院と寺院と法律事務所 IT企業が併設された複合施設が建設できたら理想です。現地駐在の日本人のためにもなります。東京別院と合わせて思案中です。これからは宗門大学や僧堂の存在価値もなくなります。宗派は適当に利用しておけばよいのであってさっさと先に行くことです。東南アジアは目覚ましい発展ぶりですが日本経済は衰退の一途です。タイや台湾などの寺院で修行を重ねることも一案です。私は大学院生時代には同級生の台湾僧や韓国僧の案内で台湾や韓国のお寺に泊まってお勤めをさせていただいた経験があります。あるいはドイツやイタリアの修道院で研修したこともあります。米国各地の禅センターにも滞在してきました。これが今の寺院運営や自己研鑽に有益に働いております。海外から日本を見つめ直す機会はその後の展開により一層の発展をもたらします。特に今の日本の宗教 仏教界には未来はありません。これから益々宗門は破綻していくことになるため個人的に動かないと生き残れません。眼を海外に向けて足を引

っ張られないようにガードをして果敢に取り組む時です。日本は競争力が低下しており切磋琢磨がありません。我が宗門ももたれ合いであって真の指導者はなく沈みゆく太陽と化しています。完全に終わっていると言っても過言ではありません。ここから抜け出してこれまでの慣習をぶっ壊せる人だけが生き残れます。そこまで遂にきました。私は足掛け15年をかけて新しい寺院システムをつくりました。これにより住職は絶対的なオーナーとして君臨し迅速に物事の判断ができる仕組みにしました。従来の運営とはまったく雲泥の差で結果を出すことができます。同業者が簡単には追いつけないだろうと自負しております。当院は最近では米国籍 韓国籍の信徒も出てきています。外国人の僧侶も募集中です。宗派や檀信徒の意見など無視しても大丈夫です。誰も助けてはくれません。難癖をつけたい暇人老人などただの公害です。ここで大いにやりましょう。シンガポールの写真を添付しました。どうかご笑覧いただけましたら幸いです。

合掌

令和4年9月13日

見性院住職



